

## 隣接臓器浸潤 cT3-4 原発性肺癌に対する治療方法の検討

1. 研究の意義：隣接臓器浸潤に浸潤した原発性肺癌（隣接臓器浸潤を伴う進行度を持つ肺癌のことを、専門的には術前から予想される病期において腫瘍因子が高いと記号（cT3-4）で表記することになっており、そのような肺癌のことを隣接臓器浸潤 cT3-4 原発性肺癌、という言葉で表します。）の治療は、手術をする場合他の症例と比べてリスクが高く、その治療成績には限界があります。また、現時点では施設により手術適応や治療方法も異なり、どの治療法が最も適しているかはわかっていません。

そこで、隣接臓器浸潤 cT3-4 原発性肺癌において治療方法（化学療法単独、放射線療法単独、化学放射線療法、術前化学療法＋手術、術前化学放射線療法＋手術、手術先行治療）別に治療成績を解析し、比較検討することで、最適な治療方法を検討することは今後の患者さんの治療成績の向上に役立つと考えられます。

2. 研究の目的：隣接臓器浸潤 cT3-4 原発性肺癌に対する治療方法別の治療成績を比較検討する。
3. 研究の対象・方法：1996年-2014年に隣接臓器浸潤 cT3-4 原発性肺癌に対し内科的及び外科的治療を行った124人の患者様を対象とします。病歴、カルテ、画像所見や、臨床検査データを参照し、その治療成績を明らかにします。

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で利用する情報は登録されている臨床情報です（性別、年齢、組織型、術前併存症、術前呼吸機能、治療内容と治療日、追加治療の有無、手術前の化学療法の有無、手術日、病期、腫瘍径、手術術式、切除根治性、補助療法の有無、最終確認日、転帰、再発部位、再発後治療など）。試料は利用しません

### 6. 外部への試料・情報の提供

外部に情報を提供することはありません。

7. 研究の対象に該当する患者さんへ：プライバシーの確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を公表する際には、症例のグループごとでの解析結果の発表となり、患者さん個人が特定されることはありません。情報が当該研究に用いられることについて患

者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。ただし、すでに発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承ください。

#### 8. 研究組織

本研究は大阪大学呼吸器外科にて行われます。

研究責任者：

565-0871

大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座 呼吸器外科学

新谷 康

電話:06-6879-3152 Fax:06-6879-3164